

研究主題

自分の考えや想いを表現しようとする児童の育成

～『本当に伝えたいこと』を豊かに表現する言語活動を通して～



荒川区教育委員会 教育長 高梨 博和

本区は、平成15年5月に内閣府における構造改革特別区域の認定を受け、小学校の教育課程に「英語科」を設置しました。そして、小学校第1学年から英語の学習を行うとともに、子どもたちの英語による実践的なコミュニケーション能力の素地が培われるよう、先行的かつ積極的に研究を進めてきました。

本校は、令和3年度より英語教育の研究に取り組み、令和4年度から2年間、荒川区教育委員会英語教育重点校の指定の下、「自分の考えや想いを表現しようとする児童の育成 ～『本当に伝えたいこと』を豊かに表現する言語活動を通して～」を研究主題に掲げ、「言語活動の充実」を重点として研究を進めてきました。

特に、児童が「本当に伝えたいこと」を主体的に考え、失敗を恐れずに友達や先生に伝える活動を通して、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上を図ってきたことは、大変な価値があり、本校の研究の取組を広く周知することで、荒川区の英語教育のさらなる推進・充実が図られることを期待しています。

結びになりますが、本校 宮原 典子 校長をはじめ、真摯に研究に取り組まれてきた教職員の皆様のご努力に敬意を表すとともに、ご指導とご助言を賜りました年間講師である聖学院大学人文学部教授 東 仁美 先生に心より感謝を申し上げ、あいさつとさせていただきます。

第四峡田小学校 校長 宮原 典子

社会が急速に大きく変化し多様化する今、10年後20年後に子どもたちが社会人として活躍する時を見据えて、学校教育を進めていく必要があります。令和2年度全面実施の学習指導要領改訂に伴い、荒川区は「荒川区小学校英語科指導指針」の改訂、全学年全時間の「荒川区小学校英語科 Lesson Plan」の作成を行い、小学校英語科学習を推進しています。

その中で本校は、令和3年度より英語指導の充実と教員の英語力向上を目指し校内研究を始め、令和4年度より荒川区教育委員会英語教育重点校の指定を受け、児童が主体的に考えや想いを表現しようとする授業の具体策を示すことが本校の役割である、と認識し研究を進めてきました。

学級担任だけでなく、専科教員や特別支援教室巡回教員も、各分科会に所属し、全教職員で議論しながら研究を深めてきました。日常生活で児童が英語で挨拶や簡単なやり取りを楽しむ姿が見られるようになってきたことや、「本当に伝えたいこと」をやり取りする児童の意欲的な姿を見て教員が自信をもって指導するようになってきたことは大きな財産となりました。本校の研究が各校の授業作りのヒントになることを願っております。

最後になりましたが、温かくご指導くださいました聖学院大学人文学部教授 東 仁美 先生、様々ご支援くださいました荒川区教育委員会の皆様に、深く感謝申し上げます。

